

# JV-Campus 使用体験アンケート調査結果報告書

令和5年12月21日

筑波大学 JV-Campus

JV-Campus 事業は、国際的オンライン教育プラットフォームを改善・発展していく段階に入り、令和5年7月にはポータルを大幅リニューアルした。コンテンツ提供およびコンテンツ学習双方のユーザー確保に資するプラットフォームをめざし、TOP ページをはじめとするデザインを全面刷新し、検索機能などを拡充した。本アンケートは、リニューアルされたサイトについて、ユーザーインターフェイス、ユーザーエクスペリエンスについて調査し、今後のプラットフォームの改善点等を明らかにした。

## (1) アンケート調査の概要

- 調査名称： 「JV-Campus プラットフォームのユーザーインターフェイス (UI)・ユーザーエクスペリエンス (UX) の体験アンケート：JV-Campus の改善・発展に向けた意見聴取」
- 方法： ペルー・カトリカ大学内施設 (Pontifical Catholic University of Peru (PUCP) 「Open PUCP」) で開催される日本留学フェア来場者 (約300名) に対して回答を求めた。希望者は、設置ブースでスクリーン上に投影された QR コードよりアンケート (Microsoft Forms) に回答した。また冒頭では、JV-Campus PR (動画3分程度) も視聴した。
- 調査日： 令和5年11月10日 10時～17時  
(11月8日～13日の日本留学フェア (ペルー) の開催中)
- 調査対象： 海外留学に興味がある大学生・高校生  
日本留学あるいは日本に関心がある大学生・高校生  
online learning 学習経験がある・業務経験がある (あるいは興味関心がある) 教育関係者・教育メディア関係者
- 使用言語： スペイン語 (ただし、回答者への説明等は、英語とスペイン語の両方で実施)

## (2) 回答状況

- 回収数：49件 (うち 無効：0件)
- 有効回答数：49件 有効回収率：100%

### (3) アンケート結果について

今後のコンテンツ及びプラットフォーム開発の参考とするため、主に、サイトの使いやすさ、サイトを使った後に日本へ来たくなるか、どんなコンテンツがよいか等について質問をした。全体として、回答者 49 名中 47 名から、実際に使ってみて日本に留学したくなると回答を得られ、「実際に行動が変わりそうだ」という、「実際に行動がどう変わったか」という段階の手前まできていることが明らかになった。回答数は限られてはいるが、今後のプラットフォームの開発、インターフェイスの改善等の参考となる肯定的な結果が得られた。

#### ① ユーザーの属性・オンライン利用状況について

・回答者の 9 割が 10-20 代かつ大学生・大学院生 (17-25 才) および社会人であり、高校生をふくめた大学生・大学院生の全員が日本への留学に関心があった。学生の専攻は工学系を中心に多岐にわたる。また、スマホ使用者が 5 割近くにのぼり、49 名中 46 名が 2 時間以上インターネットにつながっており、ペルーはインターネット学習することに親和性の高い国だということがわかる。また、8-9 割の回答者が WhatsApp、Instagram、Youtube の SNS をまんべんなく利用しており、Coursera の利用率が圧倒的に多く、edX、Udemy と続いている。利用目的としては、スキルアップ、語学学習知識・教養を高めるため、情報取得 (大学・留学・生活・就職) だということがわかる。

・既存の学習サイトは、総じて、コースのバラエティや価格、一部の機能に関しては高い評価を得ているが、インターフェイスやテクニカルサポートの不足、コース内容の一貫性や深さに不満を抱える声がある。プログラミング関連のより広範な問題に対処できるオプションや、英語以外の言語対応、ライブ授業を提供するなどが改善点として指摘されている。

・また、学習サイトを利用したことのないユーザーからは、他国の教材や教授法に興味があり、他言語習得や日本語学習への要望がある。また、技術習得や授業内容の実践、健康分野だけでなく文章解釈の学び、予備知識を深めるため、移住時の教育アドバイスも求められている。

#### ② サイトの使いやすさについて

回答者のニーズや嗜好について、教育コンテンツを通じた学習へのニーズが強く、特に日本語学習や伝統文化に関心が集中している。大学の窓口 (事務、教員、在学生) や留学生とのコミュニケーションがより多く望まれ、インターンシップ情報への期待が高い一方で、就職活動への関心はそれほどではない。個人ポートフォリオについては、職歴や学業成績の管理が主に求められる一方で、デジタルバッジや SNS 連携はあまり必要とされていない。共同利用コンテンツの見せ方には改善が求められている。

#### ③ サイトを使った後に日本へ来たくなるかについて

・本サイトが使いやすかという質問に対して、49 名中 47 名が「はい」と回答した。また、本サイトを使ったあとに、渡日したくなると回答したユーザーも 47 名となった。ただし、同時に、カテゴリーからシラバスを探しにくいことや、トピックから検索しづらさなどの改善

点も指摘されている。

#### ④ どんなコンテンツがよいかについて

・総じて、動画3本（「型」「忍者と忍術」「Diversity and Inclusion」）ともに、反応は悪くなかった。ただし、「JV-Campus オリジナル」への人気は低く、どのような見せ方したらよいかについて、人気のある「Japanese Language Package」（東京外国語大学の配信）を参考にすることも効果的と思われる。

#### ●動画「型」:

興味深く、情報・説明、コンテンツの構成がわかりやすいとの評価が得られた。特に、日本文化や武道に対する興味を引くフォーマットであり、ビデオ内容の詳細な説明や豊富な情報が好評だった。一方で、ビジュアルやダイナミックさ、ビデオの長さやスピードに関する改善点も指摘された。また、字幕やスライド、写真の活用が好評で、ビデオ内容の理解を助けるとされた。ビデオのビジュアルや説明のスピードが改善できれば、より効果的なビデオ体験が提供されるとの意見も挙がった。

#### ●動画「忍者と忍術」:

文字の多いコンテンツだったが、そんなに評価が悪くなかった。

多くの視聴者が、忍者や忍術についてのビデオに興味を持ち、分かりやすい内容だと評価した。ビデオではトピックの概要がうまく伝わっているが、テキストが多く、視覚的なコンテンツを増やすことが提案された。また、プレゼンテーションの形式をよりエンターテインメント性の高いものに改善したり、インタラクティブな要素を追加することが望まれている。ビデオを視覚的に魅力的にし、より多くの情報を図やデザインを活用して提供することで、より理解しやすくさらに興味深いコンテンツになると期待されている。

#### ●動画「Diversity and Inclusion」:

講義をする先生が最初から最後まで出てきていて、顔がみえてよかったとのことで、既存のコンテンツを利用したものでなく、新しいコンテンツとして作成したところが評価されている。視聴者が特にこのビデオを好意的に評価したのは、内容が興味深く、インタラクティブであり、情報の質が高いと感じられたことによる。一部の視聴者からは字幕の追加や他の言語への翻訳を提案し、ビデオの形式がやや形式的であると感じる声もあるが、ビデオの質や教育的価値に関して肯定的な意見が多くみられた。

#### 別添資料

- ・別紙1\_JV-Campus 使用体験アンケート調査結果
- ・別紙2\_JV-Campus 使用体験アンケート調査票\_スペイン語
- ・別紙3\_JV-Campus 使用体験アンケート調査票\_日本語版